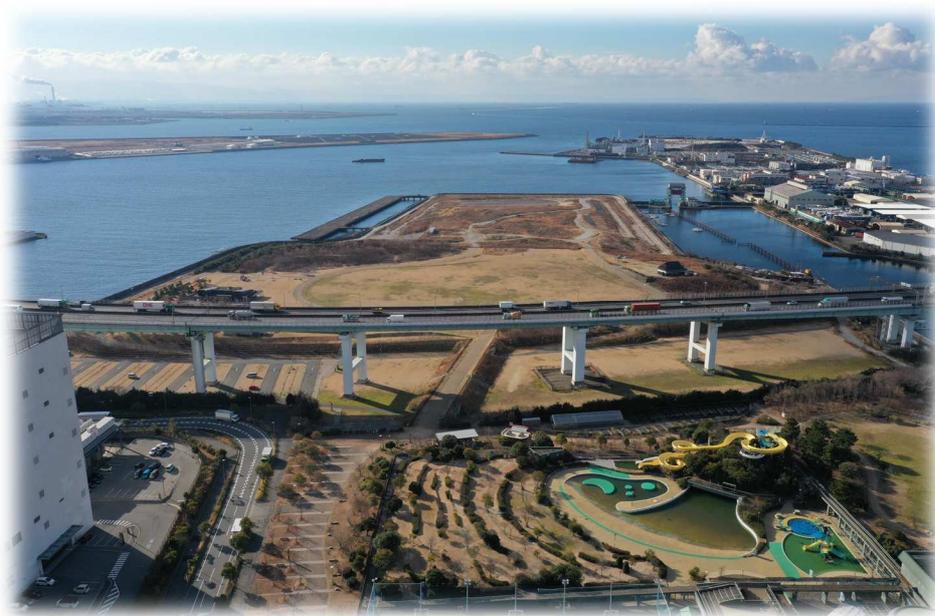


尼崎 21 世紀の森づくり行動計画（改訂版）

～森と水と人が共生する環境創造のまちづくり～



令和 5 年 3 月

尼崎 21 世紀の森づくり協議会

はじめに

尼崎臨海地域の「環境改善」と「都市再生」の両方を目指す取組

尼崎臨海地域は、古くは茅渚（ちぬ）の海、猪名の浦と呼ばれ、白砂青松の美しい海岸が連なっていました（図 1）。江戸期には天守閣を持つ城下町として栄え、臨海部の新田開発により米、綿花、菜種の栽培が盛んでした。明治後期以降、新田への工場立地、海岸の埋め立てが進み、城下町から工業都市へと急速に変貌を遂げました。大正期以降に重工業化が進み、昭和 30 年代以降の高度成長期には、阪神工業地帯の一翼として我が国の高度成長を支えていました。

しかし、工業化の波は、美しい海辺の自然環境の喪失、生活や生態系を脅かす公害の発生などの環境問題を深刻化させました（図 2）。環境に対して多くの負荷を与えてきたことや、市民にとって緑と潤いの少ない魅力の乏しい地域となっていることから、地域環境の再生が緊急かつ重要な課題となっています。

また、工場による公害は企業や地域の努力により解消される一方、阪神・淡路大震災の影響や工場の郊外や海外への移転などの産業構造の変化により、工場跡地の遊休化が進むなど、地域の活力の低下が見られることから、地域活力の再生に向けた取組が最も必要とされている地域となっています。

このような背景から、尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、「森と水と人が共生する環境創造のまち」の実現に向けて、国道 43 号以南における森づくりを核とした環境共生型のまちづくりを目指して、平成 14 年 3 月に「尼崎 21 世紀の森構想」（以下「森構想」という。）が策定されました。また、この理念を具体化するため、平成 16 年 9 月に「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画」（以下「行動計画」という。）が、平成 29 年 3 月には「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画（改訂版）」（以下改訂版という。）が、森構想推進母体の中核組織である「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」により策定されました。



図 1 明治 31 年大日本帝国 2 万迅速図ニ崎
歌川貞秀画「西国名所之内 尼崎大物の湊」



図 2 昭和 40 年代の尼崎製鉄所

改訂版の策定以降6年が経過しましたが、この間、持続可能な開発のための17の国際目標であるSDGs（エスディーゼズ）の取組の推進、新型コロナウイルス感染症の流行など、社会経済情勢に大きな変化があり、これらを踏まえた活動の見直し、新たなニーズを踏まえた展開などが必要です。

とりわけ、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の開催に向け、大阪湾ベイエリア活性化への期待が高まっています。尼崎での森づくりの取組みも域内にとどまることなく、大阪湾沿岸の他地域との連携など広域的な視点での取組みも求められることになると思われます。

こうした観点を踏まえ、森構想の理念を継承するとともに、尼崎臨海地域の「環境改善」と「都市再生」の両方を目指す世界でも類を見ない取組を今後も進めるため、行動計画を改訂します。

令和5年3月

尼崎21世紀の森づくり協議会 会長 中瀬 勲

目 次

1	尼崎21世紀の森構想	1
1-1	尼崎21世紀の森構想	1
1-2	尼崎21世紀の森づくり協議会	2
2	尼崎21世紀の森づくり行動計画	3
2-1	行動計画の趣旨	3
2-2	行動計画の実施体制	5
2-3	行動計画の枠組み	6
3	行動計画の改訂	7
3-1	行動計画の中間年評価	7
3-2	改訂の視点	7
4	改訂行動計画の基本方針	13
4-1	改訂の趣旨	13
4-2	目標	13
4-3	取組方針	13
4-4	取組の進捗状況の確認と見直し	13
5	森構想推進のための取組	14

参考資料

尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱

1 尼崎 21 世紀の森構想

1-1 尼崎 21 世紀の森構想

尼崎臨海地域は、重化学工業を中心に、日本の産業経済をリードしてきましたが、近代化の過程においてかけがえのない自然を失うとともに、公害の発生など環境面での課題を抱えています。

また、近年の産業構造の変化等により工場等の遊休地が発生するなど、地域の活力が低下し、その再生が急務になっています。

このような状況を踏まえて、尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、人々の暮らしにゆとりとうるおいをもたらす水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくりをめざして、県では「尼崎 21 世紀の森構想」を平成 14 年 3 月に策定しました。

■ まちづくりのテーマ、まちづくりの展開方向

「森と水と人が共生する環境創造のまち」

- ①環境の回復・創造、美しい風景の創出
- ②活力ある都市の再生
- ③既存産業の育成・高度化と新産業の創造
- ④豊かな人間性を育み、エコライフスタイルを創造するまちづくり
- ⑤すべての主体の参画と協働による交流型のまちづくり

■ 対象地域

国道 43 号以南の約 1,000ha を対象としています。



※ 尼崎 21 世紀の森づくり

尼崎臨海地域（1,000ha）を魅力と活力ある地域に再生するために行う緑の回復、創造と水環境の改善による環境共生型のまちづくりを「尼崎 21 世紀の森づくり」と呼びます。

1-2 尼崎21世紀の森づくり協議会

尼崎21世紀の森構想の推進にあたっては、市民をはじめあらゆる主体がイメージの共有化を図るとともに、それぞれが創意工夫しながら積極的にまちづくり・森づくりを進めるため、全ての主体の参画と協働による取り組みが必要です。

そのため市民、企業、各種団体、学識者等からなる森構想推進母体の中核組織である「尼崎21世紀の森づくり協議会」が平成14年8月に設置されました。

さらに、尼崎21世紀の森づくり協議会の中に協議会をサポートする「森」、「まちづくり」、「産業」、「発信」の4部会を設け、尼崎の森中央緑地基本計画への提案や、先進事例となる森の見学会、尼崎臨海地域のまち歩き、産業再生に向けた勉強会など、森づくり・まちづくりに向けた活動のほか、ニュースレターの発行、フォーラムの開催など、森づくり・まちづくりに関するPR等にも取り組みました。

平成25年4月からは、協議会による構想協議の機会の確保や外向けの発信力の向上、活動メンバーの自由で幅広い参加と活動負担の軽減を目的として、4部会を廃止したうえで、協議会組織を「協議体」と「活動体」に区分し、協議会は「協議体」として構想マネジメント、森の会議は「活動体」のプラットフォームとして活動マネジメントの役割をそれぞれ強化することとしています。



図 尼崎21世紀の森づくり協議会と森の会議

2 尼崎 21 世紀の森づくり行動計画

2-1 行動計画の趣旨

「尼崎 21 世紀の森づくり行動計画（平成 16 年 9 月策定）」（以下、行動計画という。）は、森構想の理念の実現に向けて、取組の方向性を示し、提案するものであり、市民、企業、行政などあらゆる主体が自主的に、あるいは連携・協力して取組むための指針となるものです。その内容については随時見直しを行いながら、森構想の理念の実現を目指します。

1) 森構想の理念を共有し、その実現に向けた取組の方向性を示し、提案します。

森構想は目標年次 100 年にわたる長期的な計画であることから、短期的な取組については具体的な内容を明らかにし、中長期的な取組については方針や見通しを示します。

【尼崎 21 世紀の森づくりの理念】

私たちが誇りとする尼崎臨海地域を魅力と活力ある、元気で美しいまちに再生するため、「森と水と人が共生する環境創造のまち」として世界に発信していきます。

○美しさ・・・

かつて、「茅渚（ちぬ）の海」と言われた素晴らしい海と、葦（よし）に覆われ夕日、入日に映える海辺の風景を持ったまち

「環境の世紀」といわれる 21 世紀を迎え、郷土種を用いた生物多様性の森づくりなどにより、失われた自然環境の再生・創造と沿岸域の健全な発展を実現していく。

○元気さ・・・

かつて、時代の要請を受け、阪神工業地帯の一翼を担い、我が国の産業経済の発展をリードしてきたまち

産業構造の変化等により、工場等の遊休地が発生するなど、地域の活力が低下してきていることから、21 世紀にふさわしい環境と調和した企業活動などにより、地域活力再生に向けて取組む。

○誇り・・・

「美しさ」、「元気さ」が紡いできた尼崎臨海地域の歴史は、私たちの「誇り」である。これらを再認識・再発見するとともに、「森と水と人が共生する環境創造のまちづくり」を通じて、「美しさ」、「元気さ」を取り戻し、さらに高めていく。

○発信・・・

「誇り」とする尼崎臨海地域の「美しさ」「元気さ」を再生し、進展させる取組として、「環境改善」と「都市再生」の両方を目指す世界でも類を見ない「尼崎 21 世紀の森づくり」を尼崎から世界に「発信」し続ける。

2) あらゆる主体（市民、企業、民間団体、行政など）が自主的に、あるいは連携・協力して取組んでいく上での指針とします。

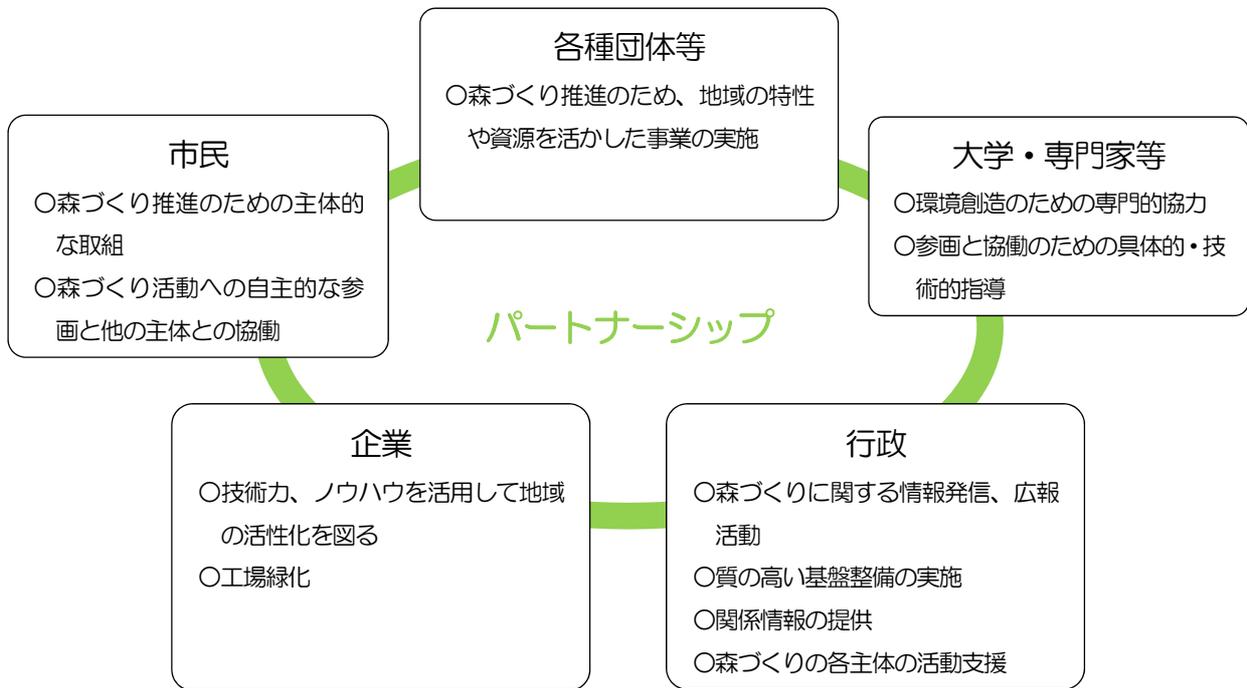


図 それぞれの主体の役割

3) 社会状況の変化や森づくり・まちづくりの取組の進捗等に応じて、随時見直しを行いながら、森構想の理念の実現を目指します。

取組の内容は〔P→D→C→Aサイクル〕の考え方に従って随時見直しを行い、毎年整理します。（※Plan→Do→Check→Action→Plan・・・）

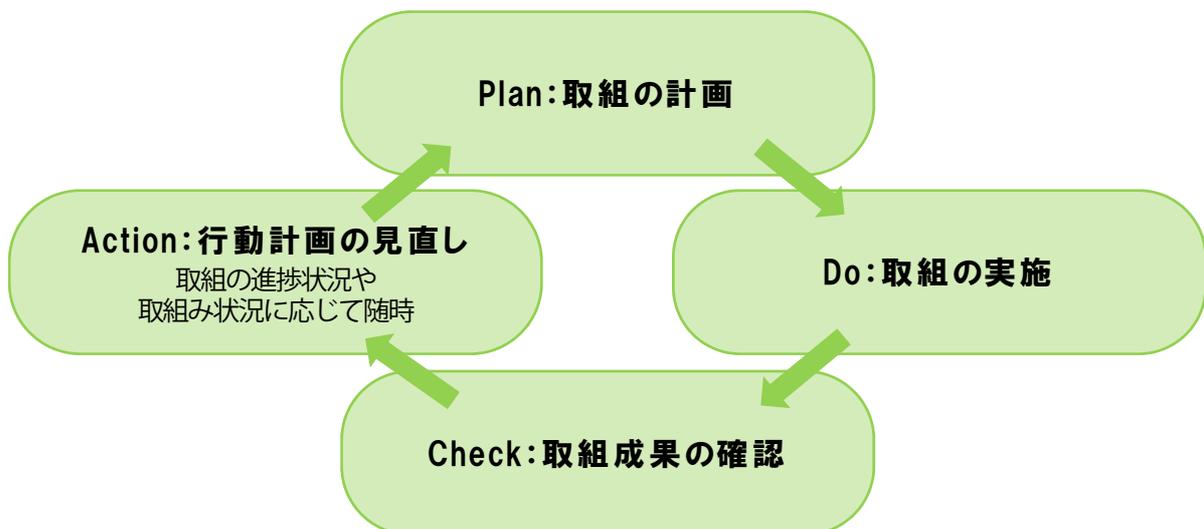


図 PDCAサイクル

2-2 行動計画の実施体制

1) 尼崎 21 世紀の森づくり協議会の役割

「尼崎 21 世紀の森づくり協議会」は、尼崎 21 世紀の森づくりに向けて、構想マネジメントを行う推進組織（協議体）として、自主的、積極的に次の 3 つの役割を担います。

○ 行動計画の策定や見直し

市民、企業、行政、各種団体といった各主体の参画と協働による取組を提案し、行動計画として策定します。また、取組状況や社会状況に応じて随時見直しも行います。

○ 森構想推進に関するマネジメント

森構想推進のために各主体に対して参画と協働を呼びかけ、主体間の調整やネットワーク化を図りながら、森構想推進のマネジメントを行います。

○ 森構想推進のための対外的発信・働きかけ

森構想の認知度の向上や活動内容の拡大など、森構想推進のために、対外的、広域的な情報の発信と働きかけを行います。

2) 森の会議の役割

森構想に関わる様々な活動をマネジメントする活動体のプラットフォームとして、自主的、主体的にグループや実行委員会等を組織して活躍する団体等の情報交換・連携を促す役割を担います。

2-3 行動計画の枠組み

行動計画は、森構想の「まちづくりの展開方向」に沿った取組を示すものとして、以下のような枠組みで策定しています。

理念	まちづくりの展開方向	取組の分類
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">森と水と人が共生する環境創造のまち 「美しさ」「元気さ」「誇り」「発信」</p>	<p style="text-align: center;">環境の回復・創造、 美しい風景の創出</p>	<p>環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組</p> <p>「先導整備地区における森づくり」 先導整備地区の尼崎の森中央緑地などにおいて、参画と協働により生物多様性の森づくりを進めていきます。</p> <p>「みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践」 みどりの創出等を通して、まち全体がみどり豊かで、生き活きとしたコミュニティの形成をめざします。</p> <p>「森づくりを支える循環型のしくみづくり」 森づくりにおける循環モデルの確立をめざします。</p> <p>「森づくりの輪を広げる」 森づくりに携わる人の輪の拡大や人材の育成、信頼される体制づくりをめざします。</p>
	<p style="text-align: center;">活力ある都市の再生</p>	<p>活力ある都市の再生に向けた取組</p> <p>「人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり」 まちの景観やアクセス、エコライフなどの視点で生き活きとしたまちづくりを考えていきます。</p> <p>「地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり」 まちづくりにみんなが参加できるようなしくみをつくり、実践していきます。</p>
	<p style="text-align: center;">既存産業の育成・高度化と 新産業の創造</p>	<p>既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組</p> <p>「森と産業が共生するまちづくりの推進」 産業遺産など、地域資源を活かしながら、森と産業が共生していくまちづくりをめざします。</p> <p>「森を活かした産業活性化の仕掛けづくり」 新たな環境・エネルギー産業に関する地域の技術を活かして、産業の活性化を支援するしくみづくりをめざします。</p>
	<p style="text-align: center;">豊かな人間性を育み、 エコライフスタイルを 創造するまちづくり</p> <p style="text-align: center;">全ての主体の参画と協働 による交流型のまちづくり</p>	<p>多様な主体による推進に向けた取組</p> <p>「構想推進のための仕掛けづくり」 森づくりに良質なイメージや愛着感を持ってもらい、取組の輪が広がるようなしくみづくりをめざします。</p> <p>「構想推進のための組織づくり」 森構想に関わるさまざまな活動を支援するしくみづくりをめざします。</p>

3 行動計画の改訂

3-1 行動計画の中間年評価

平成 29（2017）年 3 月に改訂した行動計画に基づき、市民、企業、各種団体、行政が取組を進め、5 年以上が経過しています。

この間、森構想の先導拠点地区である尼崎の森中央緑地で生物多様性の森づくりや利活用の取組が進められ、平成 30（2018）年にはかやぶき民家が移築されました。また、尼崎運河では水質浄化施設や北堀キャナルベースを拠点に運河再生に関わる取組が進められるなど、森構想を取り巻く環境や活動主体の状況等が変化しつつあります。

そこで、今後の森構想の推進方策やその進め方、協議会のあり方などの検討に資することを目的に、令和元（2019）年度に尼崎 21 世紀の森づくり行動計画（改訂版）の中間年評価を行い、各取組の実施状況を確認しました。この中間年評価の結果を踏まえて、森構想のさらなる推進のため行動計画を改訂します。

3-2 改訂の視点

視点 1 着実に成果を上げている 4 つの取組方針を今後も推進

先導拠点地区の尼崎の森中央緑地や尼崎運河を中心に、基盤整備が進むとともに、県民、企業・団体など多くの主体の参画のもと、森づくりや水質浄化活動、運河再生、環境学習、県民交流などの面で着実に成果を上げていることから、以下の 4 つの取組方針を今後も推進します。

●環境の回復・創造、美しい風景の創出

尼崎の森中央緑地において、多様な主体の参画による生物多様性の森づくりと環境学習やイベント開催など利活用の取組が着実に進展しています。これらの経験を活かして、取組を森構想エリア内外の各地へ展開していくことが必要です。

●活力ある都市の再生

尼崎運河では、市民団体や大学等が連携した水質浄化活動や環境体験学習、イベント開催により、水質浄化や運河再生が進展しています。尼崎の森中央緑地も含めて、森構想エリアの各地で実施されている様々な取組の連携による利活用の推進や PR 方策の展開が必要で

●既存産業の育成・高度化と新産業の創造

運河を活用したまちづくり活動やこれを支える組織づくり、工場緑化推進のための指針や支援制度の創設・運用などを通じて企業等による取組を継続・発展させるとともに、企業間の連携や交流を促進する取組や PR 方策の展開が必要で

●多様な主体による推進

各主体が発信する SNS の活用などといった新たな PR 方策を含む各種の広報活動により、森づくりの PR と気運の醸成が進展するとともに、森の会議等を通じた森づくり活動の輪の広がりがさらに進んでいます。今後は、市民や企業などのより

幅広い参画を促すため、コロナ禍以降に展開される市民の多様なライフスタイルやSDGsの推進などといった新たな視点を取り入れ、尼崎21世紀の森づくりへの参画を促す取組が必要です。

■森構想エリアにおける主な取組場所

これまで、尼崎の森中央緑地をはじめとした拠点地区、北堀キャナルベースを中心とした尼崎運河周辺、企業や学校の敷地など、森構想エリア内の各地で様々な取組が展開されてきました。そのうち主な取組の実施場所と内容について下図に示します。

森構想エリア全体にかかわる取組

- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○尼崎21世紀の森沿道緑化事業 ○苗木の里親制度への企業参加 ○企業等による敷地内緑化 | <ul style="list-style-type: none"> ○尼っ子リンリンロードの整備 ○コミュニティサイクル事業 ○エコキッズメッセの開催 | <ul style="list-style-type: none"> ○広報戦略の展開 ○緑も水辺も育む賞の運用(SDGs賞へ移行) ○森の会議の開催、プロジェクトの実施 |
|---|---|--|



- 凡例: 取組の分類
- 環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組
 - 活力ある都市の再生に向けた取組
 - 既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組
 - 多様な主体による推進に向けた取組

視点2 具体的な活動に結びついていない項目等の見直し

尼崎の森中央緑地など臨海地域へのアクセス改善や産業コミュニティの形成にかかわる一部の取組について、利用ニーズの変化や新型コロナウイルス感染症拡大の影響などもあり、具体的な活動に結びついていない項目等があることから、これらの見直しを行います。

●利用ニーズに応じた臨海地域へのアクセス改善

尼崎の森中央緑地など臨海地域の各施設への利用者は休日に集中していることや、自家用車でのアクセスが主体となっていることなどを踏まえ、利用ニーズに応じたアクセス改善策の見直しを行います。

●みどりの中で交流する産業コミュニティの創造

尼崎の森中央緑地を工場等で働く人々の交流の場として活用する取組について、ヒアリング等を通じた意向調査など、活動の実施に向けた取組を継続するとともに、SDGs の推進など新たな視点から企業等への働きかけを行い、実施を目指します。

視点3 社会経済情勢の変化や新たなニーズ等を踏まえた見直し

これまでの取組状況、SDGs 等の社会経済情勢や森構想エリアの環境の変化などを踏まえて、以下のとおり新たな展開を図ります。

●多様な主体が連携したプロジェクトの推進

尼崎の森中央緑地における森づくり活動、市民が主体となった運河再生の取組、企業による緑化活動など、各主体で実施してきた取組を活かして、行政、市民、企業、学校、大学等研究機関といった多様な主体が連携した事業の展開が求められています。

●交流やにぎわいを生み出す取組の展開

施設整備により充実した尼崎の森中央緑地や水質浄化施設、北堀キャナルベースといった拠点となる施設の更なる活用や回遊性の向上などにより、森構想エリアに人を呼び込み、交流やにぎわいを生み出す取組が求められています。

●SDGs 推進につながる取組の展開

SDGs 推進の取組を、企業等の尼崎 21 世紀の森づくりへの参画の機会としてとらえ、顕彰制度の創設やパートナーシップの構築などのしくみづくりが求められています。

●森構想エリアの環境の変化への対応

水質改善や工場緑化などにより環境の改善が進んだことや、工場跡地などに物流企業の立地が進んでいることなど、森構想エリアにおける環境の変化に対応した取組が求められます。

●大阪湾ベイエリアの一角としての尼崎運河への期待の高まり

臨海部を通じて大阪湾ベイエリアの各地からアクセスしやすい立地であることを活かして、大阪・関西万博の開催やインバウンドを含む観光振興、環境学習の場などとしての期待の高まりを踏まえ、尼崎運河を活用した取組が求められます。

●公園利用の新たな推進

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、外出制限や遠方へのレジャーが自粛されるなか、最寄りの公園への利用者が増加し、テレワークを実施するなど新たな公園利用の方法が生まれています。このような自ら主体的に公園を楽しむニーズに対して、適切に対応していく取組が求められます。

これら 3 つの視点に基づき、行動計画の改訂を行い、取組事例を「継続」と「新規」に区分して紹介します。

■新規の「活動項目」、「活動内容」および具体的取組

1 環境の回復・創造、美しい風景の創出

活動項目	活動内容	具体的取組（例）
エ 身近なみどりの保全・創出を通じた良好なまちなみ景観と地域コミュニティづくり	学校でのみどりづくり	・大阪湾バイエリア等尼崎市外の小学校を対象とした環境学習の受け入れ
	民有地(工場・住宅地)のみどり豊かなまちづくり	・工場敷地等を活用したすき間農園の推進
カ みどり(森)づくりを通じたまちの“らしさ”の形成	尼の“みどり文化”発掘・再生・発信	・養蜂プロジェクトの推進
	エコライフスタイルの実現	・かやぶき民家や畑等を活用した里山暮らしを体験できるプログラムの実施
コ 人材の育成・組織の育成	小中高でのみどり学習の実施	・大阪湾バイエリア等尼崎市外の小学生、中学・高校生を対象とした環境学習プログラムの実施
サ PR・イベント実施	環境学習の場としてのPR	・「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討
シ 情報の蓄積・活用の仕組みづくり	植栽図づくり	・植栽図を活用した苗木の生育状況の記録

2 活力ある都市の再生

活動項目	活動内容	具体的取組（例）
イ 生き生きとした人々の暮らしや活動が展開できるまちの空間づくり	工場緑化の推進に向けたしくみづくり	・森構想エリア内でのSDGs 顕彰制度の創設
	水質浄化施設・キャナルベースの機能強化	・研究機能の強化（新たな魚礁の設置） ・交流機能の強化（係留機能の強化、バリアフリー化） ・耐久性の強化（水質浄化施設の修理）
	蓬川、尼崎運河の親水機能の強化	・「川からのエントランス」周辺の活動拠点の整備（SUPの活動拠点整備等）
	南堀運河エリアにおける生物多様性の保全	・重要湿地における干潟環境の創出の検討 ・干潟環境や野鳥の観察等での活用
ウ 環境配慮型の新しい暮らしや活動の提案・実践	臨海地域へのアクセスの改善	・大規模イベント時等のニーズに応じたアクセス方策の検討
エ 森構想エリアの資源を生かした観光コンテンツづくり	外国人観光客向けのコンテンツの検討、実施	・中央緑地のかやぶき民家などでの日本の里山暮らし体験等を含む外国人観光客向けの観光コースの検討
	企業、団体、来訪者など多様な利用者向けエリアツアーの展開	・中央緑地や尼崎運河などを巡るコースの検討、エリアツアーイベントの実施
カ 地域内の環境を活用した生活文化の創出、発信	産業遺産を活用したまちづくり	・尼崎運河クルーズ社会実験イベントを実施
	事業予定地や低・未利用地の一時利用によるソフト面でのにぎわいづくり	・民間活力の活用によるにぎわい施設の整備・活用の検討
キ 健康・福祉、スローライフを実現する森の活用	尼崎の森中央緑地や運河を活用した健康づくりの推進	・モルック等のニュースポーツを楽しめるイベント等の開催
	尼崎産の資源を活用した子どもの育ち支援の推進	・尼崎産の魚を使った子ども食堂ネットワークの拡大

3 既存産業の育成・高度化と新産業の創造

活動項目	活動内容	具体的取組（例）
イ 働く人の交流の場の創出	みどり（森）の中で憩い、快適に働ける産業コミュニティをつくる	・企業と連携した清掃等の環境改善の取組の実施
ウ 工場内、敷地際などの緑化の推進	工場緑化について調べ、学ぶ	・尼崎 21 世紀の森づくりに係る意見交換会の機会を活用した情報発信
	工場緑化推進の仕組みをつくる	・工場敷地等を活用したすきま農園の推進
エ 環境の回復・改善方策の検討・実施	企業連携による協働の取組の推進	・増加する物流企業との連携した取り組みの推進 ・企業と連携したチャネルガイドや干潟に関する活動など尼崎運河での取組の推進

4 多様な主体による推進

活動項目	活動内容	具体的取組（例）
イ 広報（PR）計画の作成・実施	話題性ある発信型イベントの実施	・企業（尼崎信用金庫）CM を通じた森構想エリアの情報発信 ・各種学会等の誘致・開催による全国へ向けた発信 ・本格的な施設を有し世界のアスリートも利用する尼崎スポーツの森について、施設の充実を図るとともに、話題性を発信することで利用増につなげる
ウ 市民、専門家、企業等、みんなが参画するしくみづくり	SDGs 推進の視点からの参画と協働の推進	・SDGs 推進ガイドブックを活用した企業へのPR ・森構想エリア内での SDGs 顕彰制度の創設

4 改訂行動計画の基本方針

4-1 改訂の趣旨

平成 29 年 3 月の行動計画改訂から 5 年以上が経過し、森構想を取り巻く環境や活動主体の状況等が変化しつつあります。このため、令和元（2019）年度に実施した中間年評価の結果を踏まえて、森構想のさらなる推進のために行動計画を改訂します。

4-2 目標

「森と水と人が共生する環境創造のまちづくり」を基本理念とし、県民や企業等の参画と協働を得て、地域に愛され、学びや楽しみ場として幅広い利活用がなされる、地域に親しまれる森づくりをめざします。

森と水と人が共生する環境創造のまちづくり
～地域に愛され、親しまれる森づくり～

4-3 取組方針

現行計画に基づき、先導整備地区の尼崎の森中央緑地や尼崎運河を中心に着実に成果を上げてきたことから、具体的取組の経年による見直しや、社会経済情勢の変化、新たなニーズ等を踏まえ見直しを行ったうえで、引き続き以下の 4 つの取組方針のもと、尼崎臨海地域の「環境改善」と「都市再生」に取組みます。

- 環境の回復・創造、美しい風景の創出
- 活力ある都市の再生
- 既存産業の育成・高度化と新産業の創造
- 多様な主体による推進

4-4 取組の進捗状況の確認と見直し

森構想を取り巻く状況は刻々と変化しており、取組の内容や活動主体も多岐にわたることから、取組ごとに成果が発揮されるまでの期間は異なってきています。

そのため、本改訂では目標年度や代表的な評価指標は設定しないこととし、2-1 の 3) に示すとおり、PDCA サイクルに基づき取組の実施状況を毎年度、個別に確認していくことを基本とします。また、森構想を取り巻く状況や活動主体の状況変化なども踏まえて適宜確認と見直しを行うこととします。

5 森構想推進のための取組

1 環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組

取組	活動項目	
A 先導整備地区における森づくり	ア	森づくりの実践
B みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践	イ	1,000haにおける“森づくり戦略”の検討
	ウ	みどりのネットワーク(骨格)形成
	エ	身近なみどりの保全・創出を通じた良好なまちなみ景観と地域コミュニティづくり
	オ	安心して子育てのできる森づくり
	カ	みどり(森)づくりを通じたまちの“らしさ”の形成
	キ	みどり(森)づくりを通じた安全、安心のまちづくり
C 森づくりを支える循環型のしくみづくり	ケ	水、土壌、種子・苗の準備と活用
D 森づくりの輪を広げる	コ	人材の育成・組織の育成
	サ	PR・イベント実施
	シ	情報の蓄積・活用の仕組みづくり

2 活力ある都市の再生に向けた取組

取組	活動項目	
A 人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり	ア	地域の状況や既存の計画の把握、歴史の学習など、情報の共有・蓄積
	イ	活き活きとした人々の暮らしや活動が展開できるまちの空間づくり
		①工場を含めたまちの景観づくり(工場緑化、沿道景観形成、色彩計画等) ②水辺の再生・水質の改善に向けた取組
	ウ	環境配慮型の新しい暮らしや活動の提案・実践 ①環境にやさしい交通システム及びアクセスの実現 ②エコライフ・省エネルギー型ライフスタイルの実践
	エ	森構想エリアの資源を活かした観光コンテンツづくり
B 地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり	オ	地元住民、地縁組織、工場、企業、行政など、各種主体の連携づくり
	カ	まちづくりを担う人材の発掘
	キ	地域内の環境を活用した生活文化の創出、発信
	ク	健康・福祉、スローライフを実現する森の利活用
	ケ	先導整備地区のまちづくりへの参画・協働

3 既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組

取組	活動項目	
A 森と産業が共生するまちづくり	ア	産業遺産等の資源を活用したまちづくりの推進
	イ	働く人の交流の場の創出
	ウ	工場内、敷地際などの緑化の推進
	エ	環境の回復・改善方策の検討・実施
B 森を活かした産業活性化の仕掛けづくり	オ	新たな環境・エネルギー産業の振興
	カ	産業支援の仕組みづくり

4 多様な主体による推進に向けた取組

取組	活動項目	
A 構想推進のための仕掛けづくり	ア	CI(コミュニティ・アイデンティティ)計画の作成・実施
	イ	広報(PR)計画の作成・実施
	ウ	市民、専門家、企業等、みんなが参画するしくみづくり
	エ	森構想の先進的取組の普及
B 構想推進のための組織づくり	オ	情報蓄積・共有のしくみづくり
	カ	活動体(森の会議)の支援
	キ	活動資金の確保に向けた取組

1 環境の回復・創造、美しい風景の創出に向けた取組

県民、企業、団体など多様な主体の参画による生物多様性の森づくりや、身近な緑化活動、森づくりの人材育成などを通じて、自然環境の回復・創造と、みどり豊かなまちづくりをめざします。

【取組 A】 先導整備地区における森づくり

活動項目 ア. 森づくりの実践

【活動内容】

■尼崎の森中央緑地の森づくり

森構想の「先導整備地区」である拠点地区の中央緑地について、市民・各種団体等と行政が協力して、森づくりの取組を進めます。

- [継続] はじまりの森、パークセンター、大芝生広場等の供用
- [継続] 県民、企業等の参画による植樹
- [継続] 幼稚園や小学生等の環境学習や「森の会議」による県民提案型イベント、昆虫採取イベント等の実施
- [継続] かやぶき民家での昔のくらし体験プログラムの実施
- [継続] 港湾緑地（第3工区）への森づくりの拡大

【活動主体のイメージ】

- 県民
- アマフォレストの会等の団体
- 尼崎信用金庫等の企業
- 徳島大学
- （公財）ひょうご環境創造協会
- 森の会議
- 県・市・指定管理者等

■丸島地区の森づくり

森構想の「先導整備地区」である丸島地区について、市民・各種団体等と行政が協力して、スポーツ・レクリエーション機能を中心とした人の交流を促進するとともに、自然生態保全育成の森づくりを検討します。

- [継続] 野球場、多目的広場等の施設の供用
- [継続] 下水道施設の拡張計画を踏まえた自然生態保全育成の森づくりの検討

■フェニックス事業用地の森づくり

森構想の「先導整備地区」であるフェニックス事業用地について、市民・各種団体等と行政が協力して、産業の活性化と新たな産業の誘致を促進するとともに、自然生態保全育成の森づくりを検討します。

- [継続] 企業誘致の実施、太陽光発電施設による暫定的利用
- [継続] 埋立地の利用計画を踏まえた自然生態保全育成の森づくりの検討



アマフォレストの会などによる苗木の植え替え（尼崎の森中央緑地）



昆虫採取イベントの実施（尼崎の森中央緑地）



供用中の野球場（丸島地区）

【取組 B】 みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践

活動項目 イ. 1,000ha における“森づくり戦略”の検討

【活動内容】

■行動計画推進のためのワークショップ等の開催

1,000ha 全体を視野に入れ、森構想を実現するために、ワークショップ等で広く意見を出し合いながら、望ましいみどりのまち像（将来像）とそれを実現するための方策について検討します。

〔継続〕 「森の会議」の開催

【活動主体のイメージ】

○アマフォレストの会
○学識者
○森の会議
○県・市・指定管理者
等

■生物多様性保全の研究

森構想の目標である「多様な生態系を育む森づくり」をめざし、新たに創る「森」の多様性維持・向上とともに、地域固有の遺伝子等に配慮します。そのため、生物多様性について研究し、その成果を中央緑地等の整備に反映させます。

〔継続〕 尼崎の森中央緑地植栽計画に基づく森づくり

〔継続〕 専門家による中央緑地緑化技術検討会の開催

〔継続〕 森づくり体験講座等の開催

■森づくりにおけるアダプティブマネジメント(適応的管理)の手法の確立

自然の可変性を踏まえ、モニタリング結果を踏まえた森づくりの取組などを柔軟に進めるため、実験を行い、その結果を収集し、次の取組に反映させるしくみをつくります。

〔継続〕 「はじまりの森」の定点観測の実施

〔継続〕 動植物モニタリング調査の実施



森の会議



中央緑地緑化技術検討会



はじまりの森の定点観測

(平成18年7月、平成27年7月、令和4年5月の比較)

【取組 B】 みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践	
活動項目	ウ. みどりのネットワーク（骨格）形成
<p>【活動内容】</p> <p>■河川・運河の緑化活動</p> <p>河川や運河などは、みどりの骨格として、生きものの移動の道となるほか、ヒートアイランド対策・CO2 吸収などにも役立つため、1,000ha 内や地域の周辺を流れる河川・運河の美化・緑化活動を行います。</p> <p>[継続] 尼崎運河再生プロジェクト基本計画にもとづく環境整備</p>	<p>【活動主体のイメージ】</p> <p>○尼崎運河〇〇クラブ ○県・市 等</p>
<p>■街路樹の緑化活動</p> <p>街路樹は、まちの良好な景観の維持、空気の清浄化、ヒートアイランド現象の緩和などの効果を発揮するため、1,000ha 内の街路樹について、市民・各種団体等と行政が協力して、樹種の選定、緑化、維持管理などを行うしくみをつくります。</p> <p>[継続] 道路整備計画に伴う緑化の実施</p>	
	
<p>尼崎宝塚線の街路樹整備</p>	

【取組 B】 みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践	
活動項目	エ. 身近なみどりの保全・創出を通じた良好なまちなみ景観と地域コミュニティづくり
<p>【活動内容】</p> <p>■学校でのみどりづくり</p> <p>学校の総合学習などと連携し、生徒と一緒にみどりの調査やビオトープづくりを行うことで、子どもたちの自然に対する関心やまちへの愛着を高めます。</p> <p>[継続] 尼崎市の小学校等での環境体験学習や緑化指導 [継続] 中央緑地で尼崎市の小学3、4年生等を対象とした環境学習の受け入れ、「あまがさき森っこ活動」の実施 [新規] 大阪湾ベイエリア等尼崎市外の小学校を対象とした環境学習の受け入れ [継続] 学校単位での苗木の里親への参加</p>	<p>【活動主体のイメージ】</p> <p>○アマフォレストの会 ○企業 ○尼崎鉄工団地協同組合 ○学校 ○県・市・指定管理者 等</p>
<p>■民有地(工場・住宅地)のみどり豊かなまちづくり</p> <p>1,000ha をみどり豊かなまちにするため、行政の緑化活動と連携し、事業者と市民が協力して、住宅地・工場など民有地も対象に取組を進めます。</p> <p>[継続] 尼崎鉄工団地協同組合と連携した工場のすき間緑化 [新規] 工場敷地等を活用したすき間農園の推進 [継続] 企業による工場敷地緑化</p>	

■遊休地や低・未利用地の暫定的利用の仕組みづくり

1,000ha 内の工場跡地や低・未利用地などについて、暫定緑地として整備したり、苗のほ場や資材置き場・水の保留地などとして他の緑地づくりに活用するなど、暫定的活用のしくみづくりを検討します。

[継続] 工場跡地や低・未利用地の暫定的活用に向けた関係機関との協議調整



中央緑地における環境学習の受け入れ



企業によるセットバック緑化

【取組 B】 みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践

活動項目 オ. 安心して子育てのできる森づくり

【活動内容】

■尼崎の森中央緑地における森を活かした子育ての推進

中央緑地を親子が安心して訪れ、子どもたちの豊かな感性や社会性を育むとともに、日頃の子育ての場として利用してもらえるよう取組を進めます。

【活動主体のイメージ】

- 県民
- 県・市・指定管理者
- 等

[継続] 未就学児の親子を対象とした「森の子育てひろば」等の実施

[継続] 乳幼児が安全に土や植物と触れ合える公園づくり（あまもり畑でむかし体験等）



森の子育てひろば



子育ての場としての利用

【取組 B】 みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践		
活動項目	カ. みどり(森)づくりを通じたまちの“らしさ”の形成	
<p>【活動内容】</p> <p>■尼の“みどり文化”発掘・再生・発信</p> <p>尼イモなどの食文化や産業活動、まちづくりなどと連動させ、尼崎の文化としての“みどり”を発掘・再生し、それを全国発信することで、尼崎発の“みどり”ブランドを創造します。</p> <p>[継続] 市による尼いもの栽培や販売 [継続] 尼崎南部再生研究室による尼いも奉納祭 [継続] 尼崎鉄工団地協同組合による蜂蜜（尼みつ）の生産 [継続] 中央緑地の茅葺き民家周辺などでの尼いも等の栽培 [新規] 養蜂プロジェクトの推進</p>	<p>【活動主体のイメージ】</p> <p>○尼崎南部再生研究室 ○尼崎鉄工団地協同組合 ○県・市 等</p>	
<p>■エコライフスタイルの実現</p> <p>1,000ha 内で減農薬野菜づくりや炭焼き、木質バイオマスの利用など、昔の生活のよい点を振り返り、現代風にアレンジしながら、エコライフスタイルの実現と日常生活への普及をめざします。</p> <p>[継続] 剪定木等を燃料に利用する薪ストーブの活用（中央緑地パークセンター） [継続] 炭焼き小屋等の整備（中央緑地） [新規] かやぶき民家や畑等を活用した里山暮らしを体験できるプログラムの実施</p>		
		
<p>尼いも奉納祭</p>	<p>尼崎鉄工団地協同組合による尼みつの生産</p>	<p>移築復原したかやぶき民家や畑等を活用したプログラムの実施</p>

【取組 B】 みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践		
活動項目	キ. みどり(森)づくりを通じた安全、安心のまちづくり	
<p>【活動内容】</p> <p>■緑化による防災力アップのまちづくり</p> <p>街角、街路や、生け垣、公園などのみどりを増やすことにより、延焼を防止するなど、災害に強いまちづくりをめざします。</p> <p>[継続] 緑地帯整備（北堀運河等） [継続] 企業によるセットバック緑化</p>	<p>【活動主体のイメージ】</p> <p>○企業 ○県 等</p>	
		
<p>企業によるセットバック緑化</p>		

【取組 B】 みどり(森)の多面的機能を活用したまちづくりの実践	
活動項目	ク. 尼崎の水辺原風景復元
【活動内容】	<p>■生きものが住める川と海辺の復元 中央緑地の整備等とあわせて、水辺に水生植物が生育し、生きものが生息できる空間づくりを検討します。</p> <p>[継続] 人工干潟の設置及び活用（北堀運河の水質浄化施設） [継続] 雨水池の整備、湿地性植物の導入（中央緑地の港湾緑地部）</p>  <p>水質浄化施設内の人工干潟の活用</p>
	<p>【活動主体のイメージ】 ○尼崎運河〇〇クラブ ○県 等</p>
【取組 C】 森づくりを支える循環型のしくみづくり	
活動項目	ケ. 水、土壌、種子・苗の準備と活用
【活動内容】	<p>■森づくりのための水資源の循環利用 苗づくりに必要な水を確保するために、雨水や処理水の活用など、循環的な取組や、周辺に立地する企業などの協力を得る試みも検討します。</p> <p>[継続] 雨水池への工業用水の補給（中央緑地の港湾緑地部）</p> <p>■循環型の土壌づくり 剪定枝のリサイクルや浄水場の泥土、運河や水質浄化施設で発生する貝類やヨシを活用した草花の育成や野菜づくりなど、土壌づくりにおける循環のしくみとその活用について検討します。</p> <p>[継続] 循環型の土壌づくり [継続] 貝殻をつぶして作った土壌による草花・野菜づくり</p> <p>■循環型の苗・種子づくり～リ・ジェネラル～ 森づくりには、なるべく地域産の種子を用います。武庫川、猪名川流域などから種子・実生苗を採取し、研究機関や公的機関の空き地、学校（小中学校、高校、大学の敷地等）、住宅地、工場敷地などで2～3年育てた苗を植樹します。</p> <p>[継続] 県民、企業・団体等の参画による地域産種子からの苗づくり（中央緑地） [継続] 県民、企業・団体等の参画による苗木の里親制度の運営</p> <p>■木質バイオマス資源利用の調査・研究・実施 中央緑地等から産出される剪定木・間伐材などを木質バイオマス資源として、有効活用する方法を検討し、実施します。</p> <p>[継続] 剪定木等を燃料に利用する薪ストーブの活用（中央緑地パークセンター） [継続] 増加が見込まれる間伐材の有効活用方策の実施（中央緑地）</p>
	<p>【活動主体のイメージ】 ○県民 ○アマフォレストの会等の団体 ○尼崎信用金庫等の企業 ○成良中学校 ○尼崎運河〇〇クラブ ○徳島大学 ○大阪湾広域臨海環境整備センター ○県・市・指定管理者 等</p>



循環型の土壌づくりとその活用



剪定木等を燃料に利用する薪ストーブや間伐材を有効活用したクラフト、薪の販売（中央緑地パークセンター）



県民・企業・団体等の参画による地域産種子からの苗づくり（中央緑地）

【取組 D】 森づくりの輪を広げる

活動項目 コ. 人材の育成・組織の育成

【活動内容】

■モデル地域の視察や勉強会、ワークショップの実施

各地で行われている森づくりに関する取組を参考にするため、モデルとなる地域の視察や、事例に関する勉強会を開催します。

【継続】 森づくり定例活動等における見学会や種子採取、「森づくり体験講座」の実施

■苗づくり・土づくりの体験プログラムの実施

苗づくりや土づくりを体験できる活動を通して、森づくりへの気運を盛り上げるとともに、必要な技術や経験を積みます。

【継続】 中央緑地における森づくり定例活動

■森づくりアドバイザーの養成

森づくりに関して、一定の知識や技術を身につけた人を森づくりアドバイザーとして認定するとともに、研修プログラムなどを通じて、森づくりの楽しみ方などを伝える人材を養成します。

【継続】 植樹会等へ参加した県民や企業へのアマフォレストの会による指導

【継続】 アマフォレストの会による森づくり体験講座の開催

【継続】 森づくりや環境学習の指導者を養成するサポーター養成講座（いきものクラブ、虫取り名人）

■維持管理に携わるためのしくみづくり

森づくりに重要な維持管理について、継続的に取組むことができるしくみをつくり、実施します。

【継続】 中央緑地における森づくり定例活動、エリア設定型森づくり活動及び苗木の里親植樹会

【継続】 尼崎信用金庫と県による森づくりの推進に関する協定の運用

【継続】 尼崎の森ファミリークラブの実施（中央緑地）

【活動主体のイメージ】

- アマフォレストの会
 - 尼崎南部グリーンワークス
 - 尼崎信用金庫等の企業
 - 人と自然の博物館
 - 県・市・指定管理者
- 等

■既存ボランティア団体との連携

既にボランティアを中心として活動されている団体との連携した取組を行います。

[継続] アマフォレストの会などの活動と連携した生物多様性の森づくり

■水質、土壌、生物、植生などの調査・学習

水質や土壌など、苗づくりに関する基礎的なデータのほか、臨海地域を含めた植生（郷土種）などについての知識を調査、学習し、具体的な活動の際に役立てます。

[継続] 人と自然の博物館による栽培実績の少ない植物の栽培研究および土壌等の基礎的データの提供

■小中高でのみどり学習の実施

小中高校などを対象に、自然とのふれあい学習の機会を設ける取組や、森づくりに必要な苗づくりを働きかけることなどにより、環境や森づくりへの理解を深め、将来の森づくりを担う人材を育成します。

[継続] 尼崎市の小学校等での環境体験学習や緑化指導

[継続] 中央緑地で尼崎市の小学3・4年生、中学・高校生を対象とした環境学習プログラムの実施

[新規] 大阪湾ベイエリア等尼崎市外の小学生、中学・高校生を対象とした環境学習プログラムの実施



種子の採取



アマフォレストの会による
県民・企業への指導



エリア設定型森づくり活動



苗木の植替え活動



栽培実績の少ない植物の栽培研究



環境学習プログラムの実施

【取組 D】 森づくりの輪を広げる	
活動項目	サ. PR・イベント実施
<p>【活動内容】</p> <p>■森づくりに携わる人の輪の拡大 積み重ねてきた活動の成果を内外に広くPRし、さらに森づくりに関わる人の輪を拡大します。</p> <p>[継続] 中央緑地での植樹会、各種イベントの開催 [継続] 尼崎 21 世紀の森ウェブマガジン、フリーマガジン「Aa」、「森のしんぶん」等によるPR [継続] 阪神高速湾岸線通過車両に対するPRの実施（中央緑地）</p> <p>■環境教育の場としてのPR 森構想エリアの各地で実施されている環境学習の取組を一体的に進め、発信していくためのしくみづくり等を検討します。</p> <p>[新規] 「今後の森構想エリア内の環境学習のあり方」の検討</p>	
<p>【活動主体のイメージ】 ONPO 法人尼崎 21 世紀の森 ○尼崎信用金庫 ○森の会議 ○県・市・指定管理者 等</p>	
 <p>あましん植樹祭の開催</p>  <p>阪神高速道路内での看板設置</p>  <p>ニュースレター「森のしんぶん」の発行</p>	

【取組 D】 森づくりの輪を広げる	
活動項目	シ. 情報の蓄積・活用の仕組みづくり
<p>【活動内容】</p> <p>■森づくりを後生に伝えるアーカイブ(文書庫)の仕組みづくり 森づくりについて、過去の資料や現在の活動の様子を記録し、後生に伝えるためのしくみをつくります。</p> <p>[継続] 県ホームページ、尼崎 21 世紀の森ウェブマガジンによる情報提供</p> <p>■森づくりの効果を検証するためのデータ観測、収集 これまでの森づくりの取組の効果が、一体どれほどであったのかを検証するため、現在の臨海地域の状況を示すデータを定期的に観測、収集する取組を進めます。</p> <p>[継続] 「はじまりの森」の定点観測、動植物モニタリング調査</p> <p>■植栽図づくり 植生図や希少種生息地点、種子マップなどの情報を整理します。</p> <p>[新規] 植栽図を活用した苗木の生育状況の記録</p>	
<p>【活動主体のイメージ】 ○県・市・指定管理者 等</p>	



尼崎21世紀の森ウェブマガジン



動植物モニタリング調査

2 活力ある都市の再生に向けた取組

まちの景観づくり、水辺の再生や水質改善の取組、多様な主体が参加できるプログラムづくりなどを通じて、生き活きとした暮らしや活動ができるまちづくりをめざし

【取組 A】 人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり

活動項目 ア. 地域の状況や既存の計画の把握、歴史の学習など、情報の共有・蓄積

【活動内容】

■まちあるきによる地域の状況の把握

様々なテーマで臨海地域を見て歩きながら、まちづくりを考えていく上での基礎的な情報を集めます。

【継続】 森の会議の活動を通じての情報収集

【継続】 キャナルウォークの定期開催

【活動主体のイメージ】

ONPO 法人尼崎 21 世紀の森
 ○尼崎キャナルガイドの会
 ○森の会議
 ○県・市・指定管理者
 等

■既存の計画や歴史の学習

かつて尼崎がどのような歴史を歩み、どのような計画が策定されてきたのか、地元の方々などにお話を伺うなどの取組から、臨海地域の将来の姿を考える上での参考にします。

【継続】 森の会議の活動を通じての情報収集

■情報の整理、蓄積（データベース化）

まちあるきや勉強の成果、その他得られた情報などを整理、蓄積し、今後のまちづくりの検討に活用できるように、整理することを検討します。

【継続】 フリーマガジン「Aa」、「森のしゅん」等の発行

【継続】 尼崎 21 世紀の森ウェブマガジンへのまちの情報の投稿



キャナルウォークの定期開催



森の会議でのキャナルガイドの実施



NPO 法人が発行するフリーマガジン「Aa」

【取組 A】 人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり	
活動項目	イ. 生き活きとした人々の暮らしや活動が展開できるまちの空間づくり ①工場を含めたまちの景観づくり（工場緑化、沿道景観形成、色彩計画等） ②水辺の再生・水質の改善に向けた取組
【活動内容】	<p>■工場緑化の推進に向けたしくみづくり 森づくりにおいて、立地する工場の緑化推進は不可欠なため、緑化支援を行う取組の事例を集めながら、工場・企業が緑化に取組みやすい制度等をつくれます。</p> <p>【継続】 尼崎 21 世紀の森型工場緑化の運用 【継続】 工場緑化を支援する制度の活用（県民まちなみ緑化事業等） 【継続】 工場緑化等の推進に関する市条例の適用 【新規】 森構想エリア内での SDGs 顕彰制度の創設</p> <p>■沿道景観づくりに向けたまちづくり 森づくりの重要な取組として、沿道の緑化・美化・花づくりの他、広告物・サイン等のストリートファニチャーなど、沿道景観を構成するものも含めた一体的な景観づくりの取組を行います。</p> <p>【継続】 中央緑地へ誘導する自転車・歩行者用の案内サイン、市民憩いの場（欄干デザイン等）の維持補修</p> <p>■水辺を活かしたまちづくりに関する取組の実施 水辺を活かしたまちづくりの事例などを集めて勉強するとともに、運河、海などの水辺を活用したアクセス方法の検討、イベントの開催などを通して、水辺の価値を再認識します。</p> <p>【継続】 水質浄化施設及び北堀キャナルベースを活用した、運河クルージング、SUP 体験会、オープンキャナルデイやキャナルフライデー等の開催</p> <p>■水質浄化・水循環の取組の検討・実施 勉強会の開催やヒアリングなどを通して理解を深めるとともに、身近な実験から循環の方法を検討するほか、既存の研究機関の成果の活用、大学などの研究機関との連携を行います。</p> <p>【継続】 徳島大学、県、市による「尼崎運河における水環境改善等の推進についての連携協力に関する協定」の運用 【継続】 北堀運河の水質浄化施設とキャナルベースを活用した水質浄化研究や環境体験学習の受け入れ</p>
	<p>【活動主体のイメージ】 ONPO 法人尼崎 21 世紀の森 ○尼崎南部再生研究室 ○企業 ○尼崎商工会議所 ○尼崎運河〇〇クラブ ○徳島大学 ○県・市 等</p>
	   
	<p>県民まちなみ緑化事業の活用</p> <p>中央緑地に誘導する案内サイン（イメージ）</p> <p>水質浄化施設及び北堀キャナルベースを活用したイベントの開催</p> <p>水質浄化に関する徳島大学との共同研究</p>

■水質浄化施設・チャンネルベースの機能強化

大阪湾バイエリアの一角として、尼崎運河の集客コンテンツへの期待の高まりに対応するため、老朽化が進む水質浄化施設・チャンネルベースの補修や運河クルーズの発着場所としての耐性の強化などに取組みます。

- [新規] 研究機能の強化（新たな魚礁の設置）
- [新規] 交流機能の強化（係留機能の強化、バリアフリー化）
- [新規] 耐久性の強化（水質浄化施設の修理）

■蓬川、尼崎運河の親水機能の強化

尼崎の水辺資源である蓬川の水辺空間の魅力を高めるため、NPO 法人尼崎 21 世紀の森が中心となって実施している SUP の活動拠点の整備を行い、親水機能の強化を図ります。

- [新規] 「川からのエントランス」周辺の活動拠点の整備（SUP の活動拠点整備等）

■尼崎市臨海部における干潟の創出・活用

ホシハジロの渡来地であることから「重要湿地」に選定されている尼崎市臨海部において、生物多様性保全の観点から、干潟環境の創出や野鳥の観察場所としての活用について検討します。

- [新規] 重要湿地における干潟環境の創出の検討
- [新規] 干潟環境や野鳥の観察等での活用



尼崎運河での SUP 体験



運河に渡来した渡り鳥
（尼崎市臨海部）

【取組 A】 人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり	
活動項目	ウ. 環境配慮型の新しい暮らしや活動の提案・実践 ①環境にやさしい交通システム及びアクセスの実現 ②エコライフ・省エネルギー型ライフスタイルの実践
<p>【活動内容】</p> <p>■臨海地域へのアクセスの改善</p> <p>臨海地域へのアクセス面でのバリアを解消できるよう、自転車や臨時バスなどを活用し、森づくりにおいて望ましいアクセスを実現します。</p> <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px;"> <p>[継続] 尼っこリンリン・ロードなどを活用したサイクル利用の拡大</p> <p>[新規] 大規模イベント時等のニーズに応じたアクセス方策の検討</p> <p>[継続] レンタサイクルやコミュニティサイクルなど中央緑地と最寄り駅を結ぶサイクル利用のしくみづくり</p> </div>	<div style="border: 1px dotted gray; padding: 5px;"> <p>【活動主体のイメージ】</p> <p>ONPO 法人尼崎 21 世紀の森</p> <p>○尼崎信用金庫</p> <p>○成良中学校</p> <p>○徳島大学</p> <p>○大阪湾広域臨海環境整備センター</p> <p>○（公財）ひょうご環境創造協会</p> <p>○県・市</p> <p style="text-align: right;">等</p> </div>

■環境にやさしい交通システム（低公害車等）の導入

臨海地域は公共交通機関が十分整っておらず、自動車による輸送が主となっていますが、環境にやさしい21世紀型の交通体系のあり方を提案します。

〔継続〕 阪神出屋敷駅と中央緑地を結ぶ阪神バスの運行

〔継続〕 エコキッズメッセ等における低公害車のPR

■再生利用可能な環境にやさしい「森のエネルギー」の利用

環境共生都市のモデルとして、循環型のエネルギー利用を検討・実施します。主に行政、企業の各主体による連携を軸に、技術的な開発を促進するとともに、臨海地域やその周辺からも協力を得るしくみづくりを検討します。

〔継続〕 中央緑地（学習棟・作業棟）、フェニックス事業用地等における太陽光発電施設の稼働

〔継続〕 中央緑地における風力発電装置エウロスの稼働

■地域内で発生する廃棄物のリサイクルの検討・実施

臨海地域内外で発生する再利用可能な資源、廃棄物のリサイクルを検討・実施します。

〔継続〕 剪定木等を燃料に利用する薪ストーブの活用（中央緑地パークセンター）

〔継続〕 循環型の土壌づくり

〔継続〕 貝殻をつぶして作った土壌による草花・野菜づくり

〔継続〕 増加が見込まれる間伐材の有効活用方策の検討（中央緑地）

■環境にやさしい行動の実践、普及、啓発

環境にやさしい行動をできることから実践します。森構想の対象区域のみならず、広域的に広がっていくような、人と自然、文化にやさしい取組を研究、開発します。

〔継続〕 エコキッズメッセの開催



ニコリンロードの活用



設置されたサイクルポート



低公害車のPR



中央緑地における太陽光発電



中央緑地の間伐材の有効活用
方策の検討



エコキッズメッセの開催

【取組 A】 人々の暮らしや活動を盛り込んだ地域の将来像づくり	
活動項目	エ. 森構想エリアの資源を生かした観光コンテンツづくり 【新規】
【活動内容】	
<p>■外国人観光客向けのコンテンツの検討、実施【新規】 アクセスしやすい立地を活かして、短時間でも立ち寄れるなど、近畿圏の他の観光地とのパッケージ化などにも対応可能な観光コンテンツづくりについて検討します。</p>	
<p>[新規] 中央緑地のかやぶき民家などでの日本の里山暮らし体験等を含む外国人観光客向けの観光コースの検討</p>	
<p>■企業、団体、来訪者等多様な利用者向けエリアツアーの展開【新規】 企業の研修や福利厚生行事、学校や各種福祉施設等の団体利用、観光等といった様々な利用者のニーズに対応したエリアツアーコース等について検討・実施します。</p>	
<p>[新規] 中央緑地や尼崎運河などを巡るコースの検討、エリアツアーイベントの実施</p>	
<p>【活動主体のイメージ】 ONPO 法人尼崎 21 世紀の森 ○尼崎南部再生研究室 ○企業 ○尼崎商工会議所 ○尼崎運河〇〇クラブ ○県・市・指定管理者 等</p>	
	
かやぶき民家	外国人向けの観光コンテンツ例

【取組 B】 地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり	
活動項目	オ. 地元住民、地縁組織、工場、企業、行政など、各種主体の連携づくり
【活動内容】	
<p>■地元住民、既存まちづくり団体との連携 まちづくりの観点から、地元の人々や事業者に対するの普及、啓発に取組み、既に南部地域再生をテーマとして活動しているまちづくり団体の他、地元団体と連携して、まちづくりに取組むための方法を検討します。</p>	
<p>[継続] 地元企業・団体・学校等と連携したオープンキャナルデーやキャナルフライデー等の開催 [継続] 運河における SUP 体験会の実施や尼崎キャナルガイドの会の活動の継続 [継続] 地元住民や団体の交流の場となる森の会議の開催</p>	
<p>【活動主体のイメージ】 ONPO 法人尼崎 21 世紀の森 ○尼崎南部再生研究室 ○尼崎キャナルガイドの会 ○尼崎運河〇〇クラブ ○徳島大学 ○森の会議 ○県・市・指定管理者 等</p>	
	
キャナルフライデー	森の会議での意見交換

【取組 B】 地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり	
活動項目	カ. まちづくりを担う人材の発掘
【活動内容】 ■まちづくりアドバイザーの養成 まちあるきや勉強の成果を基にして、まちづくりに対して意見を述べるなどの「まちづくりアドバイザー」の養成や、ガイドウォークの充実をめざします。 [継続] 尼崎キャナルガイド養成講座の開催 [継続] 尼崎キャナルガイドの会の活動の継続	
【活動主体のイメージ】 ○尼崎キャナルガイドの会 ○県・市 等	
	
尼崎キャナルガイド養成講座の開催	尼崎キャナルガイドの会の活動

【取組 B】 地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり	
活動項目	キ. 地域内の環境を活用した生活文化の創出、発信
【活動内容】 ■産業遺産を活用したまちづくり 臨海地域のものづくりの技術や工業都市としての歴史、公害の歴史を後世に伝えるため、産業遺産について知ってもらい、その価値を共有することを目的とした活動など、産業遺産を活用したまちづくりの取組を行います。 [継続] 産業遺産である尼崎運河のPRとして運河クルージング等を実施 [継続] パンフレット「阪神南近代化産業遺産物語」による運河網をはじめとする産業遺産の紹介 [継続] であい橋のライトアップ等による運河の魅力発信 [新規] 尼崎運河クルーズ社会実験イベントを実施	
■事業予定地や低・未利用地の一時利用によるソフト面でのにぎわいづくり 中央緑地の事業予定地などを一時的に利用して、にぎわい創出に向けたイベントの開催などを企画、実行します。また、臨海地域内の未利用地、駐車場や資材置き場なども活用して、まちづくりをアピールするとともに、様々な人々がまちづくりに関わるきっかけをつくります。 [継続] スポーツイベント等の実施 [新規] 民間活力の活用によるにぎわい施設の整備・活用の検討	
【活動主体のイメージ】 ONPO 法人尼崎 21 世紀の森 ○尼崎南部再生研究室 ○尼崎信用金庫 ○企業 ○県・市・指定管理者 等	
	
尼崎運河クルーズ	であい橋のライトアップ

【取組 B】 地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり

活動項目 **ク. 健康・福祉、スローライフを実現する森の利活用[新規]**

【活動内容】

■尼崎の森中央緑地や運河を活用した健康づくりの推進

スポーツやレクリエーションを通じた健康づくりの場として、中央緑地や運河などを活用するためのしくみづくりや様々なイベント開催を行います。

- [継続] 尼崎スポーツの森の運営と活用
- [継続] 尼っ子リンリンロードなどを活用したサイクル利用の拡大
- [継続] レンタサイクルやコミュニティサイクルなど、中央緑地と最寄駅を結ぶサイクル利用の推進
- [継続] 大芝生広場を活用した運動会等の開催
- [新規] モルック等のニュースポーツを楽しめるイベント等の開催

【活動主体のイメージ】

- 森の会議
- 県・市・指定管理者
- 等

■尼崎産の資源を活用した子どもの育ち支援の推進 [新規]

尼崎市立魚釣り公園などと連携し、尼崎産の魚を子ども食堂へ無償で提供するなど、地域の課題解決とともに尼崎産の資源の魅力を広げる取組を行います。

- [新規] 尼崎産の魚を使った子ども食堂ネットワークの拡大



中央緑地や運河におけるランニングコースの設定。(イメージ)



サイクル利用の推進(イメージ)



運動会等の開催(例：モルック大会)

【取組 B】 地元住民、市民、事業者、行政などの主体がまちづくりに参加できるプログラムづくり

活動項目 **ケ. 先導整備地区のまちづくりへの参画・協働**

【活動内容】

■尼崎の森中央緑地の利活用と森構想エリアへの拡大[新規]

森構想の「先導整備地区」である拠点地区の中央緑地について、様々な活動やイベント等の取組を進め、利活用を図ります。また、スポーツの森において、交流空間などを活用した森に関するプログラム、イベント等を企画提案するなど、中央緑地での利活用のし方を森構想エリアに広がっていきます。

- [継続] 大芝生広場等を活用したイベントの開催(森のマルシェ、パークヨガ等)
- [継続] 森やみなの花野を活用したイベントの開催(昆虫採取イベント、郷土種ガーデニングコンテスト、ナイトフォレストアドベンチャー等)
- [継続] 地元自治会等と連携した森の文化祭の開催、広々とした空間を活用した森の運動会等の実施

【活動主体のイメージ】

- 県民
- 地元自治会・団体
- アマフォレストの会
- 徳島大学
- (公財)ひょうご環境創造協会
- 森の会議
- 県・市・指定管理者
- 等

■丸島地区におけるまちづくりと利活用

森構想の「先導整備地区」である丸島地区について、スポーツ・レクリエーション機能を利活用した活動について検討します。

〔継続〕 野球場、多目的広場等を活用したスポーツ・レクリエーション機能の確保

■フェニックス事業用地におけるまちづくりと利活用

森構想の「先導整備地区」であるフェニックス事業用地について、活動可能地の一時利用を中心とした取組などを検討します。また、将来の自然生態の保全・育成の森を利活用した活動について検討し、提案します。

〔継続〕 太陽光発電施設による暫定的利用



大芝生広場を活用した
イベントの開催（森のマルシェ）



森を活用したイベントの開催
（ナイトフォレストアドベンチャー）



地元自治会等と連携した
森の文化祭の開催



スポーツ・レクリエーション機能の
確保（丸島地区）



太陽光発電施設による暫定的利用
（フェニックス事業用地）

3 既存産業の育成・高度化と新産業の創造に向けた取組

産業遺産等の資源を活用したまちづくり活動や、工場・事業所で働く人々の交流の場、新産業支援のしくみづくりなどを通じて、森と産業の共生、産業の活性化を目指します。

【取組 A】 森と産業が共生するまちづくり

活動項目 ア. 産業遺産等の資源を活用したまちづくりの推進

【活動内容】

■産業遺産等について調べ、学ぶ

産業遺産をはじめ臨海地域の資源を活用したまちづくりを進めるため、尼ロックなどの地域資源について調べ、学び、情報収集に取組むほか、地域や市民生活との関わりを深めるため、地域資源等について楽しく学び集える空間・機会づくりなどに取組みます。

[継続] 尼ロック内に設けた展示室を活用した尼ロックや運河等の地域資源の学習

[継続] 津波等の防災学習

【活動主体のイメージ】

ONPO 法人尼崎 21 世紀の森
 ○尼崎南部再生研究室
 ○企業
 ○尼崎運河〇〇クラブ
 ○県・市
 等

■産業まちづくりの輪を広げるための仕組みをつくる

産業遺産をはじめ臨海地域の資源を活用したまちづくりを進めるため、多様な主体と連携してまちづくりを展開する仕組みづくりに取組みます。

[継続] 尼崎運河〇〇クラブによるまちづくり活動

[継続] 運河クルージング、オープンキャナルデーやキャナルフライデー等の開催

[継続] 全国運河サミットを契機とするネットワークを活かした全国各地の運河との情報交換・連携の取組推進

■産業都市としてのアイデンティティを育む

臨海地域から産業遺産をはじめとする地域資源を活用したまちづくりをおこし、中長期的には市内全域への拡大、さらに産業都市としてのアイデンティティを生み出すように取組みます。

[継続] 運河クルージング、オープンキャナルデーやキャナルフライデー等の開催

[継続] 企業による環境再生の取組を子供たちに伝えるエコキッズメッセの開催

[継続] 全国運河サミットを契機とするネットワークを活かした全国各地の運河との情報交換・連携の取組推進



尼ロックの展示室



尼崎運河〇〇クラブの活動



エコキッズメッセの開催

【取組 A】 森と産業が共生するまちづくり	
活動項目	イ. 働く人の交流の場の創出
<p>【活動内容】</p> <p>■みどり（森）の中で憩い、快適に働ける産業コミュニティをつくる 工場・事業所で働く人々が、憩いとやすらぎを感じ、快適に働ける交流の場づくりを通じて、産業振興や地域の活力再生に取組みます。</p> <p>[継続] 尼崎信用金庫等の企業の森づくりへの協力 [継続] 企業の福利厚生事業の中央緑地における実施 [新規] 企業と連携した清掃等の環境改善の取組の実施</p>	
<p>【活動主体のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○尼崎信用金庫等の企業 ○尼崎商工会議所 ○森の会議 ○県・市・指定管理者 <p style="text-align: right;">等</p>	
 <p>中央緑地における企業の運動会の実施</p>	 <p>尼崎信用金庫による森づくり活動</p>

【取組 A】 森と産業が共生するまちづくり	
活動項目	ウ. 工場内、敷地際などの緑化の推進
<p>【活動内容】</p> <p>■工場緑化について調べ、学ぶ 工場内や敷地際などの緑化による緑豊かなまちづくりを進めるため、工場緑化の現状や制度などについて調べ、学び、情報収集に取組みます。</p> <p>[新規] 尼崎 21 世紀の森づくりに係る意見交換会の機会を活用した情報発信</p>	
<p>【活動主体のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業 ○尼崎鉄工団地協同組合 ○尼崎商工会議所 ○県・市 <p style="text-align: right;">等</p>	
<p>■工場緑化推進の仕組みをつくる 工場内や敷地際などの緑化による緑豊かなまちづくりを進めるため、工場緑化を推進するための仕組みづくりに取組みます。</p> <p>[継続] 尼崎鉄工団地協同組合と連携した工場のすき間緑化 [新規] 工場敷地等を活用したすきま農園の推進 [継続] 工場緑化を支援する制度の活用（県民まちなみ緑化事業等） [継続] 工場緑化等の推進に関する市条例の適用、尼崎 21 世紀の森型工場緑化ガイドブックによる企業への指導 [継続] 事業者による緑化の取組を推進する新たなしくみづくり</p>	
 <p>工場緑化を支援する制度の活用（県民まちなみ緑化事業）</p>	

【取組 A】 森と産業が共生するまちづくり	
活動項目	エ. 環境の回復・改善方策の検討・実施
<p>【活動内容】</p> <p>■森を活かした「グリーン系産業」の仕組みをつくる</p> <p>環境技術を活かしたよりよい地域環境づくりを進めるため、尼崎が蓄積してきた環境技術の活用や新たな環境技術の開発など、拠点の森等を活かしたグリーン系産業の仕組みづくりに取組みます。</p> <p>【活動主体のイメージ】</p> <p>○企業 ○尼崎信用金庫 ○県・市 等</p>	<p>【継続】 尼崎市が「環境と産業の共生」、「地域経済の好循環」を図るために制定した尼崎版グリーンニューディールに基づく取組（公用車への燃料電池自動車の導入、スマートコミュニティの構築など）</p>
<p>■幅広い環境技術、環境要素に展開する</p> <p>環境技術を活かしたよりよい地域環境づくりを進めるため、グリーン系産業を起点に、さらに幅広い環境技術、環境要素に拡大して取組みます。</p> <p>【活動主体のイメージ】</p> <p>○企業 ○尼崎信用金庫 ○県・市 等</p>	<p>【継続】 尼崎市が「環境と産業の共生」、「地域経済の好循環」を図るために制定した尼崎版グリーンニューディールにもとづく取組（公用車への燃料電池自動車の導入、スマートコミュニティの構築など）</p>
<p></p> <p>尼崎版グリーンニューディールの実現 （イメージ）</p>	<p></p> <p>公用車への燃料電池自動車の導入</p>
<p>■企業連携による協働の取組の推進【新規】</p> <p>工場跡地等に立地が増加している物流企業を対象に尼崎 21 世紀の森づくりについて PR するとともに、物流企業の特성에応じた連携の取組について検討します。</p> <p>【活動主体のイメージ】</p> <p>○企業 ○尼崎信用金庫 ○（公財）ひょうご環境創造協会 ○県・市 等</p>	<p>【新規】 増加する物流企業との連携した取り組みの推進 【新規】 企業と連携したチャネルガイドや干渉に関する活動など尼崎運河での取組の推進</p>
【取組 B】 森を活かした産業活性化の仕掛けづくり	
活動項目	オ. 新たな環境・エネルギー産業の振興
<p>【活動内容】</p> <p>■環境・エネルギー産業について調べ、学ぶ</p> <p>森と共生する新産業の創出をめざして、新たな環境・エネルギー産業を振興していくため、環境・エネルギー産業について調べ、学び、情報収集に取組むほか、自然エネルギーを学び、新エネルギーの展示や利用体験ができる公園や、まちの中の各装置への新エネルギーの利活用なども検討します。</p> <p>【活動主体のイメージ】</p> <p>○企業 ○尼崎信用金庫 ○（公財）ひょうご環境創造協会 ○県・市 等</p>	<p>【継続】 中央緑地（学習棟・作業棟）、フェニックス事業用地等における太陽光発電施設の稼働 【継続】 中央緑地における風力発電装置エウロスの稼働 【継続】 燃料電池自動車の公用車への利用、商用水素ステーションの充実</p>

■環境・エネルギー産業の振興の輪を広げるための仕組みをつくる

森と共生する新産業の創出をめざして、新たな環境・エネルギー産業を振興していくため、関連主体と連携できる仕組みづくりに取組みます。

〔継続〕 水素社会実現に向けたセミナーの開催、水素関連産業市場への企業参入支援



商用水素ステーションの充実



水素社会実現に向けたセミナーの開催

【取組 B】 森を活かした産業活性化の仕掛けづくり

活動項目 カ. 産業支援の仕組みづくり

【活動内容】

■企業アンケート等の実施

森を活かした産業活性化を進めるため、森構想と産業に関する企業意向を把握し、今後の活動の指針に役立てます。

〔継続〕 森構想に関する工場・事業所の意向を把握するためのアンケート調査・ヒアリング等の実施

【活動主体のイメージ】

- NPO 法人尼崎 21 世紀の森
 - 尼崎信用金庫等の企業
 - 尼崎商工会議所
 - 森の会議
 - 県・市・指定管理者
- 等

■産業活性化方策の検討、提案

森を活かした産業活性化を進めるための制度やインセンティブ、体制整備などの方策を検討し、広く提案します。

〔継続〕 環境改善に寄与する地域の優れた技術や製品・工法、取組などを表彰する「あましんグリーンプレミアム」の実施

■地域PRと情報発信

森構想と企業活動を結びつけ、森を活かした産業活性化を進める基盤的機能として、臨海地域のPRと主に産業活性化にかかる情報発信に取組みます。

〔継続〕 エコキッズメッセの開催
 〔継続〕 あまがさき産業フェアの開催
 〔継続〕 尼崎 21 世紀の森ウェブマガジン、フリーマガジン「Aa」、「森のしんぶん」等による情報発信



あましんグリーンプレミアム



あまがさき産業フェア

4 多様な主体による推進に向けた取組

各種の広報活動や情報発信、多様な主体が連携して発展的な活動を生み出せるしくみづくりなどを通じて、尼崎21世紀の森づくりのさらなる普及と推進をめざします。

【取組 A】 構想推進のための仕掛けづくり

活動項目 | ア. CI（コミュニティ・アイデンティティ）計画の作成・実施

【活動内容】

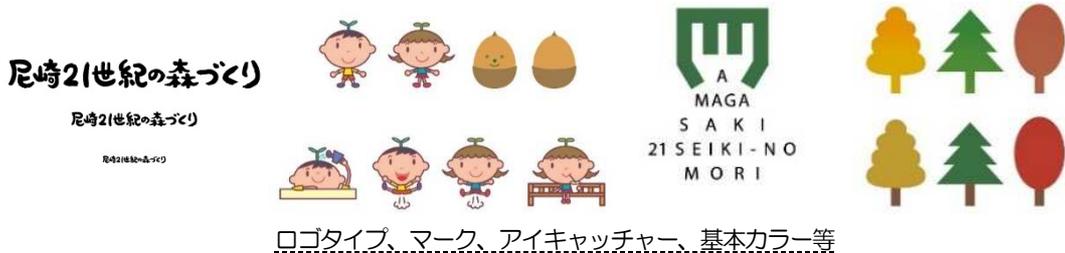
■ CI（コミュニティ・アイデンティティ）計画の作成・実施

取組に携わる人々に良質なイメージや愛着感を持ってもらうため、森づくりを広報する際に好感のあるイメージを持ってもらうよう、CI計画を作成し、その計画に基づき広報活動を実施します。

【活動主体のイメージ】

ONPO法人尼崎21世紀の森
〇県・市
等

【継続】 尼崎21世紀の森CI計画（ロゴタイプ、マーク、アイキャッチャー、基本カラー等）に基づく広報活動の実施



【取組 A】 構想推進のための仕掛けづくり

活動項目 | イ. 広報（PR）計画の作成・実施

【活動内容】

■ ニュースレターの作成・配布

森づくりの取組を広く発信するためのニュースを作成し、配布します。

【継続】 フリーマガジン「Aa」、「森のしんぶん」の発行

■ ホームページの作成・公開・更新、SNSの活用

森づくりの取組を広く発信するため、外部への情報発信機能と内部での情報共有ツール機能を持たせたホームページを作成・公開・更新します。また、SNSを活用した情報発信についても継続します。

【継続】 県・市・NPO法人尼崎21世紀の森等によるホームページの更新

【新規】 県・市・NPO法人尼崎21世紀の森等によるSNSを活用した情報発信

■ 周知チラシ・ポスター・各種パンフレットの作成、配布

森づくりの取組を広く発信するため、イベントや取組の周知チラシ、ポスター、各種パンフレットをターゲットにあわせて作成し、配布します。

【継続】 森づくり活動への勧誘のための各種PRチラシ等の作成

【継続】 中央緑地の整備の進展に合わせたイベント案内チラシ作成

【活動主体のイメージ】

ONPO法人尼崎21世紀の森
〇アマフォレストの会
〇尼崎信用金庫
〇森の会議
〇県・市・指定管理者
等

■各種 PR グッズの作成・配布

森づくりの活動を盛り上げるための各種PRグッズを作成し、配布します。

[継続] 缶バッジ、キーホルダー等のPRグッズの作成

[継続] 森をイメージしたエコバッグの作成

■話題性ある発信型イベントの実施

森づくりを地域に浸透させていくために、話題性を持った、従来にない多彩な事業展開を検討し、森づくりの活動を多方面に発信するイベント等を開催します。

[継続] 郷土種ガーデニングコンテスト、大芝生広場を活用した森の運動会の開催（中央緑地）

[新規] 企業（尼崎信用金庫）CMを通じた森構想エリアの情報発信

[新規] 各種学会等の誘致・開催による森構想エリアにおける取組の全国へ向けた発信

[新規] 本格的な施設を有し世界のアスリートも利用する尼崎スポーツの森について、施設の充実を図るとともに、話題性を発信することで利用増につなげる



尼崎21世紀の森ウェブマガジン



森のしんぶん



缶バッジ (PRグッズ)



中央緑地のイベントチラシ



郷土種ガーデニングコンテスト

【取組 A】 構想推進のための仕掛けづくり		
活動項目	ウ. 市民、専門家、企業等、みんなが参画するしくみづくり	
<p>【活動内容】</p> <p>■企業協賛のしくみづくり 森づくりへの取組、イベント等への参加協力とあわせて、企業の取組をPRしてイメージアップを図り、地域の企業とともにまちづくりを進めるプログラムやしくみをつくります。</p> <p>[継続] 企業協賛型の取組（フリーペーパー「Aa」の発行） [継続] エコキッズメッセへの企業の出展 [継続] 尼崎信用金庫等の企業の森づくりへの協力</p>	<p>【活動主体のイメージ】 ONPO 法人尼崎 21 世紀の森 ○アマフォレストの会 ○尼崎信用金庫等の企業 ○森の会議 ○県・市・指定管理者 等</p>	
<p>■人材・団体のデータバンク化（専門家のアドバイザー登録） いろいろな主体が参画し、森づくりを行っていくため、人材、団体のデータバンクを作成し、ネットワーク化を図ります。</p> <p>[継続] 森づくりに関わった人材、団体のデータバンク化</p>		
<p>■ボランティア登録制度 ボランティア登録制度を作成し、今後の活動に活かしていきます。</p> <p>[継続] アマフォレストの会の活動 [継続] 苗木の里親制度による県民のボランティア登録 [継続] 尼崎の森ファミリークラブの活動（中央緑地）</p>		
<p>■プラットフォーム（意見・情報交換の場）の機能の確立と運営 森づくりについての情報や意見を交換するため、プラットフォームを開催し、より発展的な活動が生み出されるような運営を行います。</p> <p>[継続] 「森の会議」の開催</p>		
<p>■SDGs 推進の視点からの参画と協働の推進【新規】 SDGs をきっかけとして企業等が森づくり活動に参加していただけるように、企業の取組に関するガイドブックの作成・運用や、顕彰制度の創設・運用を実施します。</p> <p>[新規] SDGs 推進ガイドブックを活用した企業へのPR [新規] 森構想エリア内でのSDGs 顕彰制度の創設</p>		
 <p>フリーペーパー「Aa」の発行</p>	 <p>アマフォレストの会の活動</p>	 <p>尼崎の森ファミリークラブの活動</p>

【取組 A】 構想推進のための仕掛けづくり

活動項目 工. 森構想の先進的取組の普及

【活動内容】

■森構想における先進的取組の他施設等への普及[新規]

森構想の取組のなかで、中央緑地等における先進的事例については、その成果を他の施設等へ普及させることにより、森構想の浸透と一層の推進を図ります。

[継続] 森の子育てひろばの他施設等への展開

[継続] 中央緑地で育成した苗木の他施設への提供

【活動主体のイメージ】

○県民
○県・市・指定管理者
等

【取組 B】 構想の推進のための組織づくり

活動項目 オ. 情報蓄積・共有のしくみづくり

【活動内容】

■データベースづくり

森構想に関わる地域の情報や写真を収集、整理します。また、データベースにストックされた情報をPR・発信ツールの材料として利用します。

[継続] 中央緑地及び周辺地域の過去の写真等を収集・整理し、森構想や中央緑地のPR等に活用

【活動主体のイメージ】

○森の会議
○県・市・指定管理者
等

■情報共有のしくみづくり

森構想の活動を支えるため、メーリングリストの整備など、参加者が必要な情報を得られる仕組みを整えます。

[継続] メーリングリスト、ホームページ、SNSによる情報共有

[継続] 尼崎21世紀の森ウェブマガジンを通しての情報共有

■学習会、研修会の開催

参加者全員が同じスタートラインから始められるよう、森構想や今までの活動経過など、一定の前提条件について共有化を図るため、学習会や研修会を定期的で開催します。

[継続] 森の会議におけるワークショップ等の開催



森構想や中央緑地のPR用
パネル



尼崎21世紀の森ウェブマガジン



「森の会議」の開催

【取組 B】 構想の推進のための組織づくり

活動項目 **カ. 活動体（森の会議）の支援**

【活動内容】
■活動体（森の会議）のさらなる活性化方策の検討
 森構想に関わる様々な活動をマネジメントする活動体（森の会議）を支援するため、新たな参加者の確保や参加者間の情報交換・連携をはじめ、さらなる活性化に資する方策を検討します。

【活動主体のイメージ】
 ○尼崎 21 世紀の森づくり協議会
 ○県・市・指定管理者
 等

[継続] 「森の会議」のさらなる活性化方策（近隣の大学や高校との連携など）の検討



尼崎 21 世紀の森づくり協議会における活性化方策の検討（イメージ）

【取組 B】 構想の推進のための組織づくり

活動項目 **キ. 活動資金の確保に向けた取組**

【活動内容】
■自主財源確保のしくみづくり
 森構想の推進に資する、市民、企業、活動団体と連携したまちづくり活動を支援するため、自主財源を確保する手法を検討し、実施します。

【活動主体のイメージ】
 ○尼崎 21 世紀の森づくり協議会
 ○県・市・指定管理者
 等

[継続] 記念グッズや軽食販売等による収益確保の検討（中央緑地等）
 [継続] クラウドファンディング活用の検討



記念グッズや間伐材等を有効活用した新等の販売

(参考)

1 尼崎の森中央緑地の植樹本数（累計）

年度	本数
令和 4 年度 (4~1月)	102, 257
令和 3 年度	100, 749
令和 2 年度	96, 849
令和元年度	95, 584
平成30年度	90, 602

2 尼崎の森中央緑地の来園者数

年度	人数
令和 4 年度 (4~12月)	484, 389
令和 3 年度	560, 079
令和 2 年度	503, 903
令和元年度	636, 182
平成30年度	511, 860